

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成20年10月16日(2008.10.16)

【公開番号】特開2005-44378(P2005-44378A)

【公開日】平成17年2月17日(2005.2.17)

【年通号数】公開・登録公報2005-007

【出願番号】特願2004-291787(P2004-291787)

【国際特許分類】

G 0 6 Q 40/00 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 17/60 2 3 4 A

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月1日(2008.9.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

コンピュータを使用して、複数台の自動車を纏めて担保にして金銭を融資するシステムであって、

複数台の自動車を担保として金銭の融資を希望する者から融資の申し込みを、複数の自動車を特定する情報と共にコンピュータを使用した通信回線により受け付ける受付手段と、

前記受付手段により受け付けた複数の自動車を特定する情報に基づき、抵当権の設定の対象となる複数台の各々の自動車に関する自動車の車種の型式、色、装備の内容、走行距離などの各種データを取得してデータベースに登録する登録手段と、

自動車の車種の型式、色、装備の内容、走行距離などのタイプ別に当該時点での市場売却価格を記憶してある市場売却価格記憶手段と、

前記受付手段が融資の申し込みを受け付けたとき、この登録手段によりデータベースに登録された各種データと、前記市場売却価格記憶手段に記憶してある市場売却価格から当該自動車を対象に融資可能な合計金額を算定する算定手段と、

前記算定手段により算定された融資可能な合計金額に基づき、融資希望者にコンピュータを使用した通信回線により、複数台の自動車を纏めて担保として融資に関する条件を提示する提示手段と、を備えたことを特徴とする自動車に抵当権を設定して金銭を融資するシステム。

【請求項2】

複数台の自動車を担保として金銭の融資を希望する者の保有する複数台の在庫自動車を、自動車の車種の型式、色、装備の内容、走行距離などの各種データと共に登録しておく在庫自動車登録手段をさらに備え、

前記受付手段で融資の申し込みを受け付ける際、前記在庫自動車登録手段に登録されている複数の自動車を指定することで、複数の自動車を特定する情報を受け付けることを特徴とする請求項1記載の自動車に抵当権を設定して金銭を融資するシステム。

【請求項3】

前記算定手段が融資可能な合計金額を算定する際、前記市場売却価格記憶手段に記憶してある市場売却価格に所定の係数を乗ずることで融資可能な合計金額を算定することを特徴とする請求項1または請求項2記載の自動車に抵当権を設定して金銭を融資するシステ

ム。

【請求項 4】

前記所定の係数を取引毎に変更設定可能であることを特徴とする請求項 3 記載の自動車に抵当権を設定して金銭を融資するシステム。

【請求項 5】

請求項 2 記載の自動車に抵当権を設定して金銭を融資するシステムにおいて、

当該融資を受けているユーザーから抵当権設定の対象となっている自動車を変更したい旨の要求を受領する変更要求受領手段をさらに備え、

この変更要求受領手段で、変更要求を受領した際、前記在庫自動車登録手段に登録されている自動車を特定することで、新たに抵当権を設定する自動車を特定する情報をも受領し、

前記算定手段は、この変更要求受領手段で受領した新たに抵当権を設定する自動車を特定する情報を基に融資可能金額を算定し、

前記提示手段は、この算定手段の算定結果により、融資可能金額が融資残高を上回ったときは、変更要求に応じる旨を、融資可能金額が融資残高を下回ったときは、変更要求に応じられない旨を提示することを特徴とする自動車に抵当権を設定して金銭を融資するシステム。

【請求項 6】

請求項 5 記載の自動車に抵当権を設定して金銭を融資するシステムにおいて、

前記提示手段が変更要求に応じられない旨を提示するとき、担保となる自動車の追加を選択する旨を提示することを特徴とする自動車に抵当権を設定して金銭を融資するシステム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】自動車に抵当権を設定して金銭を融資するシステム

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

本発明は、自動車等に抵当権を設定して金銭を融資するシステムに関する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

請求項 1 記載の発明では、コンピュータを使用して、複数台の自動車を纏めて担保にして金銭を融資するシステムであって、複数台の自動車を担保として金銭の融資を希望する者から融資の申し込みを、複数の自動車を特定する情報と共にコンピュータを使用した通信回線により受け付ける受付手段と、前記受付手段により受け付けた複数の自動車を特定する情報に基づき、抵当権の設定の対象となる複数台の各々の自動車に関する自動車の車種の型式、色、装備の内容、走行距離などの各種データを取得してデータベースに登録する登録手段と、自動車の車種の型式、色、装備の内容、走行距離などのタイプ別に当該時点での市場売却価格を記憶してある市場売却価格記憶手段と、前記受付手段が融資の申し込みを受け付けたとき、この登録手段によりデータベースに登録された各種データと、前

記市場売却価格記憶手段に記憶してある市場売却価格から当該自動車を対象に融資可能な合計金額を算定する算定手段と、前記算定手段により算定された融資可能な合計金額に基づき、融資希望者にコンピュータを使用した通信回線により、複数台の自動車を纏めて担保として融資に関する条件を提示する提示手段と、を備えたことを特徴とする。

請求項2記載の発明では、請求項1記載の発明において、複数台の自動車を担保として金銭の融資を希望する者の保有する複数台の在庫自動車を、自動車の車種の型式、色、装備の内容、走行距離などの各種データと共に登録しておく在庫自動車登録手段をさらに備え、前記受付手段で融資の申し込みを受け付ける際、前記在庫自動車登録手段に登録されている複数の自動車を指定することで、複数の自動車を特定する情報を受け付けることを特徴とする。

請求項3記載の発明では、請求項1または請求項2記載の発明において、前記算定手段が融資可能な合計金額を算定する際、前記市場売却価格記憶手段に記憶してある市場売却価格に所定の係数を乗ずることで融資可能な合計金額を算定することを特徴とする。

請求項4記載の発明では、請求項3記載の発明において、前記所定の係数を取引毎に変更設定可能であることを特徴とする。

請求項5記載の発明では、請求項2記載の自動車に抵当権を設定して金銭を融資するシステムにおいて、当該融資を受けているユーザーから抵当権設定の対象となっている自動車を変更したい旨の要求を受領する変更要求受領手段をさらに備え、この変更要求受領手段で、変更要求を受領した際、前記在庫自動車登録手段に登録されている自動車を特定することで、新たに抵当権を設定する自動車を特定する情報をも受領し、前記算定手段は、この変更要求受領手段で受領した新たに抵当権を設定する自動車を特定する情報を基に融資可能金額を算定し、前記提示手段は、この算定手段の算定結果により、融資可能金額が融資残高を上回ったときは、変更要求に応じる旨を、融資可能金額が融資残高を下回ったときは、変更要求に応じられない旨を提示することを特徴とする。

請求項6記載の発明では、請求項5記載の自動車に抵当権を設定して金銭を融資するシステムにおいて、前記提示手段が変更要求に応じられない旨を提示するとき、担保となる自動車の追加を選択する旨を提示することを特徴とする。